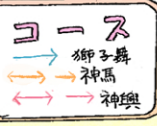


布引海岸 (富津岬)

富津岬の布引海岸には、弟橋媛の衣が流れつき、海岸近くの貴布祢神社に祀られている。海岸には弟橋媛の鎮布票着儀がある。

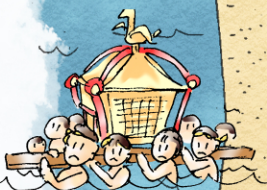


馬出し 14:00~15:30

オメシと呼ばれる神馬の鞍に神霊である幣束をつけ、吾妻神社から岩瀬海岸まで、オメシの後を神輿が続き渡御する。
海岸では、二人の青年が馬の口を持ち、馬の両脇しがみついて疾走する。神馬の疾走は1回、続いて副神馬の疾走が行われ、弟橋媛の櫓が流れ着いたところで、幣束をおろし埋納し帰還する。引き続き、神輿が海岸で神輿ごと海に入る清めを行ったあと、還御する。(千葉県指定無形民俗文化財)



神輿 15:30~16:30



富津市役所

元スタンド前 (神輿)

18:30に義引き渡し 元スタンド前
岩瀬→還御当番区
(輪番制による共同責任)

神輿還御 18:30~20:30

氏子たちが提灯で神輿を照らしながら神社へ向かう。石灯籠と神社がライトアップされ、4区合同で神輿が神社を回り、安置される。

獅子舞 6:30~8:00

雌雄の獅子が、朝神馬が吾妻神社に向かう前、宝輪寺から吾妻神社まで、参道の穢れを払い浄化する。道中、獅子頭を上げ下げし、前後へ移動しながら進む。拝殿ではお囃子を奏で、その後神社入り口欄干横の囃子屋台に安置する。

オブリ神事 9:20~9:30

(吾妻神社出陣 8:15~)
オブリとは神前に供える儀のことで、青竹を一対に併せた中央に出世魚(イナダ)をつり下し、吾妻神社前に担ぎあがる。鳥居前では、「オイス、オイス」のかけ声とともにおくらまんじゅうの要領で、腕を組みもみあいがから神社へ入る。拜前に安置してある神輿にオブリを飾り、大漁祈願を行う。
(富津市指定無形民俗文化財)



吾妻神社 (神輿)

9:45 出発
20:30 安置

神馬 吾妻神社

9:00 鳥居先
9:15 石段廻る
9:18 祭典
9:20 お払い
10:00 下山
16:35 帰山

獅子頭安置 8:00~

鳥居先 (神輿)
10:40 仁義引き渡し
宮元 (西大和田) → 絹
吾妻小学校
吉野小前 (神輿)
11:00 (行き)
19:50 (帰り)

中村橋 (神輿)

12:00 仁義引き渡し
絹→中

JA大佐和支店 (神輿)

12:15 中

長西山 (神輿)

13:05 仁義引き渡し
中→岩瀬

走水から上総国へ

あつあつ
神話のまち布流津 (富津市の由来)

日本武尊と弟橋媛の軌跡をたどる

吾妻神社例大祭~馬出し祭~

西大和田区 (宮元)・絹区・中区・岩瀬区

9月17日(日)

日本武尊と弟橋媛伝説

古事記・日本書紀で伝えられる日本武尊が東征により東国(蝦夷)を大和朝廷の支配にしたときのこと。
走水(三浦半島)から船出して上総国(房総)へ向かった日本武尊は、大風により難船しそうになった。お伴していた妃の弟橋媛が日本武尊の身代わりに海神の心を鎮めようとして入水し荒波を鎮め、無事日本武尊は上総国へ上陸した。その7日後に海神に身を捧げた弟橋媛の櫓が岩瀬海岸に流れつき、そこから一頭の馬が現れて幣束をくわえ、走水の海が一望できる吾妻山の頂き(吾妻神社)までがけ上がったといわれている。また、身につけていた衣が流れ着いた場所が富津岬の布引海岸と伝えられる。

問い合わせ

富津市(市外局番 0439)
生涯学習課 ☎80-1342
秘書広報課 ☎80-1225
商工観光課 ☎80-1291

